

グローバルリクルーター養成講座

～グローバルリクルーターのためのインド視察研修プログラム～

国際協力銀行が昨年末に発表した、「わが国製造業企業の海外事業展開の動向」に関するアンケートによると、日本企業の経営者が、今後 10 年後に事業の展開先としてもっとも有望だと考えている国は、これまでの中国からインドが取って代わったことが明らかになりました。

近年インドは 2 桁に迫る経済成長を続け、日印関係では 2003 年度以降の最大の円借款供給先でもあります。また、日本政府からはデリー・ムンバイ間の産業大動脈構想を打ち出され、インドにおけるインフラ整備支援や両国の経済発展を支える人材育成活動に関する合意がされていることは周知のとおりです。

一方で日本国内に目を移すと、少子高齢化によるマーケットの縮小に加え、国際競争力の低下、団塊世代の大量定年退職を背景に深刻な人材不足など課題が山積しております。

ソフトブリッジにも

「優秀な海外の人材リソースを活用したい」

「先行事例を有する日本企業を訪問したい」

「現地で専門家の話をじっくり聞きたい」

という企業の方々からの要望が日増しに高まってきています。

インド人材リソースに大きな魅力を感じながら、活用しきれていない日本企業が多いのではないのでしょうか？

研修の目的

インド人材リソースの利点と、インド人材リソースを活用する際に必要となる具体的な知識を深め、自社の採用戦略に直結させる

ご参加をお勧めしたい方

グローバル採用にかかわる方(採用、人材開発、経営企画、海外事業責任者の方)

期間

6日間(4泊)

期日

6月22日(日)～27日(金)

(申込締切:出発の2週間前まで)

参加料

78万円（航空券・ホテル・現地移動・食事代を含む）

航空機はエコノミークラス、ホテルは5つ星クラスを予定しています

* ビジネスクラスご希望の方は別途ご相談ください

募集人数

15名（最少催行人数 4名）

研修コーディネーター

小平達也氏

株式会社ジェイエーエス代表 <http://www.ja-sol.jp/>

株式会社パソナテックにて中国・インド・ベトナム等の外国人社員の採用と活用を支援する「グローバル採用支援プログラム」を開発し自動車、家電、IT業界や行政に提供。中国事業部、中国(大連)法人および海外事業部を立ち上げ事業部長および董事(取締役)を歴任。グローバルリクルートのオーソリティー。2008年1月より現職

ブラシャント・ジェイン

ソフトブリッジソリューションズCEO。グローバル人材育成と、グローバル人材採用を基盤として日本とインドとの経済交流の発展に貢献したいという願いから、SCTC (Softbridge Center for Technology Communications)をインドに設立。

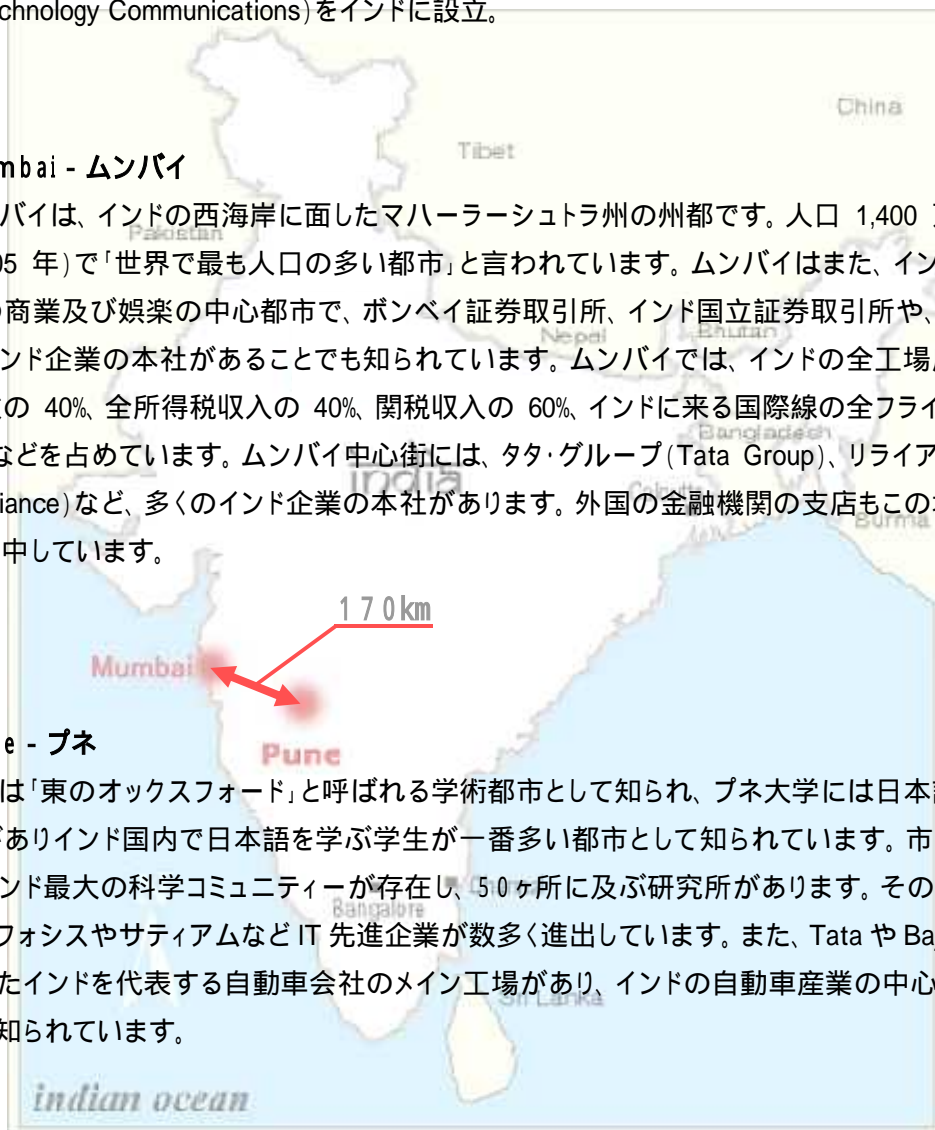
訪問都市

Mumbai - ムンバイ

ムンバイは、インドの西海岸に面したマハラシュトラ州の州都です。人口 1,400 万人 (2005 年) で「世界で最も人口の多い都市」と言われています。ムンバイはまた、インド随一の商業及び娯楽の中心都市で、ボンベイ証券取引所、インド国立証券取引所や、多くのインド企業の本社があることでも知られています。ムンバイでは、インドの全工場雇用者数の 40%、全所得税収入の 40%、関税収入の 60%、インドに来る国際線の全フライトの 40%などを占めています。ムンバイ中心街には、タタ・グループ(Tata Group)、リライアンス (Reliance) など、多くのインド企業の本社があります。外国の金融機関の支店もこの地域に集中しています。

Pune - プネ

プネは「東のオックスフォード」と呼ばれる学術都市として知られ、プネ大学には日本語学科がありインド国内で日本語を学ぶ学生が一番多い都市として知られています。市内にはインド最大の科学コミュニティーが存在し、50ヶ所に及ぶ研究所があります。そのためインフォシスやサティアムなどIT先進企業が数多く進出しています。また、Tata や Bajaj といったインドを代表する自動車会社のメイン工場があり、インドの自動車産業の中心地として知られています。



スケジュール < 6泊8日 >

「なぜ、世界がインド人材を求めているのか？」

1日目 成田発 - ムンバイ着

2日目 ムンバイ

視察 例:ボンベイ証券取引所、ムンバイの経済特区(SEEPZ)、IIT ムンバイ校
夕方、ムンバイ プネに移動

3日目 プネ

インドグローバル人材の活用法を徹底分析

ワークショップ:インド人採用、育成、活用、雇用関係、インド人エンジニアのキャリア志向・・・
『インドの人的資源管理とは？』

インド人学生との座談会

視察 世界の経済界が注目するインド産学連携人材育成モデル視察
例:政府系 R&D センター(C-DAC)、プネ大学

夜:日本人研修生とのディナー

*インドでの研修生活についての意見交換

4日目 グローバル人材養成のカギを徹底考察

ケーススタディ&ディスカッション:『日系企業のインドにおける先進事例』

ワークショップ:インドリソースを最大活用するための必須スキル

『異文化対応力強化トレーニング体験』

視察 例:日本企業のインドにおけるグローバル人材育成活動(SCTC)

インド進出日系企業、インド先進企業(インフォシス)

5日目 午前:プネ市内視察

午後:プネ ムンバイに移動

夜 ムンバイ発

6日目 成田着

* ワークショップは、ゲストスピーカーによる特別講義と参加者によるディスカッションです。

* 視察先については、現地企業等の都合により変更になる場合があります。

【お問合せ先】

ソフトブリッジソリューションズジャパン株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-3-7 イーグランド神田橋ビル 3F

e-mail: info@softbridge.jp

HP: www.softbridge.jp

TEL: 03-5280-7818

FAX: 03-5280-0503

担当: 丸山 渡邊